

校長先生の初恋物語

第7話 ヒーローはだれだ



力つきたとっくんは、もうきんに君の体重を支えることができなくなっていました。一步も前に進めません。目の前にあるかいだんなんてムリです。かいだんの上から、きんに君を落としてしまいそう。げんかいです。その時です。

「どうしたの。とっくん。」
かいだんの下から、ダンプさんがやってきました。

「ダンプさん、きんに君が大変なんだ。保健室まで運びたいんだけど、ぼくはもうムリ。げんかだよ。ダンプさん。きんに君を落とすしちやいそうだよ。助けて。」

するとダンプさん、
「フン。まかせときな。」
きんに君をかるがるとかかえました。体が大きく、怪力のダンプさんは、きん肉のかたまりきんに君をかんとんにだきかかえ

ました。そして、ダンプさんは、きんに君をだっこしたまま、かいだんをものすごいスピードでかけおりていき、あっという間に見えなくなりました。その姿は、まさにダンプカー。たくましくて、とてもかっこよく見えました♡

「すごかったぜー。きんに君の足、完全におれてたよ。」

教室にもどると、足長君が事故のじょうきょうをいなかた人に説明しているところでした。足長君のまわりには、たくさんの人がいて、足長君の話に耳を傾けていました。足長君は、ちゃっかりしていま



す。自分は真っ先に逃げてしまったのに、なにもしていないというのに、いつの間にやら、きんに君を助けたヒーローは自分みたいないかたでした。足長君がえんぜつをしているその時、きんに君を保健室に運び終えたダンプさんが教室にもどってきました。そして、とくいげに話をしている足長君に向かって、

「足長君はなにもしていないじゃない。きんに君を助けたのは、とっくんですよ。今日は、とっくんがヒーローよ。」

そう言ってくれました。足長君はその一言で、しょんぼりしてしまいました。ダンプさんの言葉を聞いて、その場にいたみんなが、とっくんのまわりに来てくれて、とっくに拍手をしてくれました。その時なんです。とっくんが、ダンプさんのことを好きになったのは。こわいこわいと思っていたダンプさんでしたが、とっくんの心の中では、こわくなくなっていました。「ダンプさんが好き♡」という気持ち

とっくんは悩みました。実を言うと、とっくんには、前から好きな女の子がいたのです。マンモス小のマドンナ、よしこさんです。かわいくて、やさしくて、マンモス小の人気ナンバーワンアイドルのよしこさん。男子はみんなよしこさんにあこがれていました。足長君だって、よしこさんのことが好きでした。

さあ、困った。とっくんはよしこさんを好きという気持ちと、ダンプさんが好きという気持ちと、両方の気持ちができてしまいました。この後、初恋物語は愛の火花パチパチのすごいことになってしまいます。 つづく

さあ、とっくんは、よしこさんをとるのか、ダンプさんをとるのか・・・とっくんの恋の行方は。

次回予告 運命の席がえ

